取扱説明書〈 EY・EZ・FA・FM・FZ 〉

この度は、当社製品をお買い上げいただきありがとうございました。
この時計を末永くご愛用いただくため、本取扱説明書をよくお読みの上、正しくご使用下さいますようお願い申し上げます。
尚、この取扱説明書はお手元に保管し、必要に応じてご覧下さい。

◆安全上のご注意

ご使用になられる方や他の人への危害及び財産の損害を未然に防ぐため、次の表示で区分されている内容につきましては必ずお守り下さい。

⚠警告…この表示の欄は、表示内容と異なった使い方をしたときに『死亡または重傷などを負う可能性が想定される』内容です。

⚠注意…この表示の欄は、表示内容と異なった使い方をしたときに『人的傷害または物的損害のみが発生する可能性が想定される』内容です。

◆製品の特徴

①この時計は、自動巻機械時計です。手巻きはできません。
②時刻表示の他に、パワーリザーブインジケーターおよび日付（針表示）が付いています。
③製品により、ワールドタイム機能や秒針停止装置を備えているものもあります。（◆製品使用　参照）
④てんぷを衝撃から守る、耐震軸受を使用しています。

◆製品仕様

キャリバー	手巻き	振動数	石数	精度日差	持続時間	日付	ワールドタイム	秒針停止装置
EY(46H)	×	21,600振動／時間	23石	+25秒〜−15秒	40時間以上	○	○	×
EZ(46J)	×	21,600振動／時間	23石	+25秒〜−15秒	40時間以上	○	×	×
FA(46K)	×	21,600振動／時間	21石	+25秒〜−15秒	40時間以上	○	○	×
FM(46U)	×	21,600振動／時間	21石	+25秒〜−15秒	40時間以上	○	×	×
FZ(48H)	×	21,600振動／時間	23石	+25秒〜−15秒	40時間以上	○	○	○

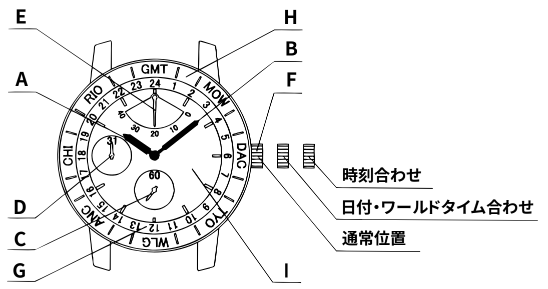
※製品仕様はキャリバー№によって異なります。
キャリバーNo. はケース裏蓋に刻印されていますケース№上2桁をご参照下さい。
例　ケース№ …FA01-C0 → 上2桁

※ 精度日差は室温において、ぜんまいを全巻にし、文字板上で静置した状態にて、24時間経過した時の日差です。
※ 機械時計の特性上、ご使用になる条件（携帯時間・時計の姿勢・腕の動き・ぜんまいの巻き上げ具合等）によっては、精度日差の範囲を超える場合があります。
※ 製品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

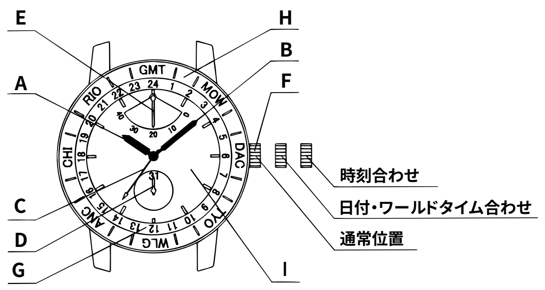
◆ご使用方法

【各部の名称とはたらき】

EY・EZ・FZ



FA・FM

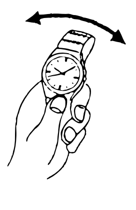


A:時針
B:分針
C:秒針
D:日針
E:パワーリザーブ針
F:りゅうず
G:回転表示板※
（ﾜｰﾙﾄﾞﾀｲﾑ機能付製品のみ）
H:ベゼル
I:文字板

※モデルにより、時刻表示のものと都市名表示のものがあります。
※回転表示板の時刻表示に対する都市名（または、都市名に対する時刻）は、モデルにより、ベゼルに表示されるものと、文字板に表示されるものがあります。
※モデルにより、りゅうず・日付・パワーリザーブ針等の位置が異なるものがあります。

【自動巻機構について】

①この時計は自動巻機械時計です。
②時計を腕に付けている間、腕の動きでぜんまいを自然に巻き上げることができます。
③止まっている時計をご使用になるときは、１０数回時計を振って下さい。運針を始めます。秒針が動き出したら日付・時刻・ワールドタイムを合わせて下さい。その後腕に付けて下さい。
④この時計は、ぜんまいが充分に巻き上げられた状態で約４０時間動き続けます。ぜんまいの巻き上げが不足すると進み遅れの原因になります。巻上げを充分に行い、精度を保つためにも１日８時間以上携帯することをおすすめします。



【ねじロック式りゅうずモデルの場合】

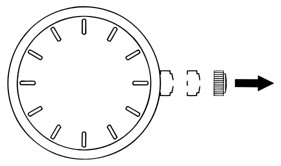
モデルによってはりゅうずが引き出せないタイプ（ねじロック式りゅうずモデル）になっているものがあります。
このタイプの時計については、次の操作方法を行って下さい。
- 日付、時刻、ワールドタイム合わせ時は、先にりゅうずを左に回し、ねじを緩めてから行って下さい。
- 日付、時刻、ワールドタイム合わせ終了後は、りゅうずを押しながら右に回し、ねじを止まるところまでしっかり締め込んで下さい。

◆秒針停止装置

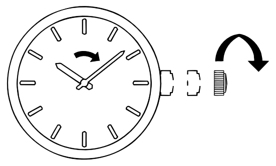
◎秒針停止装置つきの製品は、時刻合わせ時に秒針を止めて操作することが出来ます。
①秒針が６０秒の位置にきた時、りゅうずを２段目まで引き出します。
②◆時刻及び日付の合わせ方の手順に従い時刻合わせを行います。
③時報と同時にりゅうずを押し込みます。

◆時刻及び日付の合わせ方

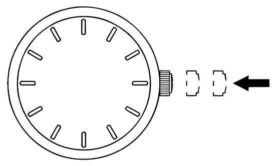
【時刻の合わせ方】



①りゅうずを2段目まで引き出します。（秒針は止まりません。）
秒針停止装置つきの製品は、秒針が止まります。



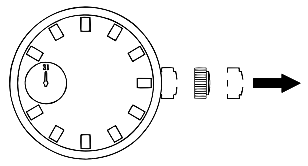
②りゅうずを右に回して現在の時刻に合わせます。
※この時計はカレンダー付きの時計のため、午前・午後を間違えないようにセットして下さい。日付が変わるときが「午前0時」となります。
※時刻を合わせる際には、針を一旦正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにして下さい。



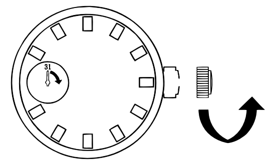
③りゅうずを通常の位置（0段目）まで押し込みます。秒針停止機能つきの製品は、秒針が動き出します。

【カレンダー（日付）の合わせ方】

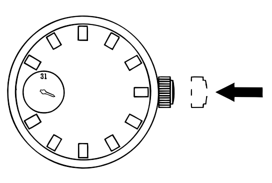
⚠注意
※時刻が午後8時から午前2時までの間はカレンダーの切換作動中ですので、日付合わせは避けて下さい。この時間帯に日付を合わせますと、翌日になっても日付が変わらないことや故障の原因となる場合があります。日付合わせを行う場合は、この時間外に針を移動させてから行って下さい。



①りゅうずを1段目まで引き出します。
※ この時計のりゅうずは2段に引けます。



②りゅうずを左に回して今日の日付に合わせます。（製品により、日付位置が異なります。例は9時位置の場合です。）



③りゅうずを通常の位置（0段目）まで押し込みます。

◎月末の日付修正について
小の月では日付の修正が必要になりますので、翌月の1日になりましたら、日付を「1日」に合わせて下さい。

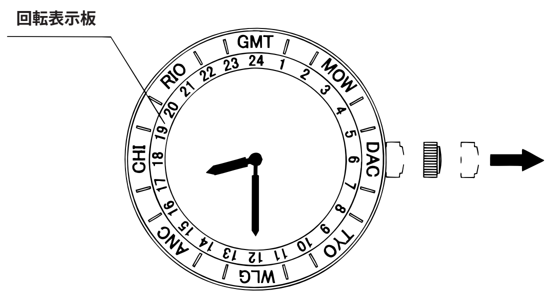
◆ 回転表示板（ワールドタイム機能）の使い方

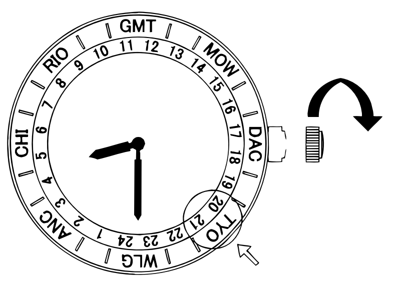
◎ 回転表示板を回し、都市名と時刻を合わせることにより、各都市の時刻を同時に読みとることができます。

（1）回転表示板に時刻が表示されているモデル

①時刻が現在の時刻に合っていることを確認します。
②りゅうずを1段目まで引き出します。
※この時計のりゅうずは2段に引けます。
③りゅうずを右に回して、あなたが現在いる都市に、回転表示板の現在時刻を合わせます。（表示板は30分単位で左回りに回転します。）
④りゅうずを押し込みます。

例.日本で使用する場合
回転表示板の現在時刻をTOKYO（TYO）に合わせます。　日本時間午後8時30分の場合、回転表示板の20時と21時の中間をTOKYO（TYO）に合わせます。

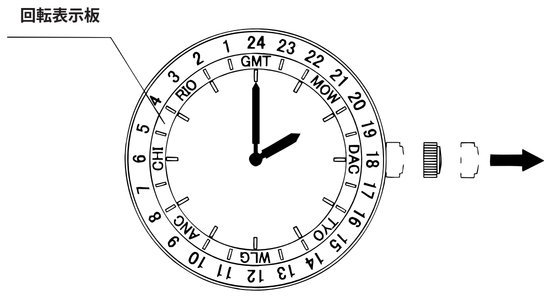




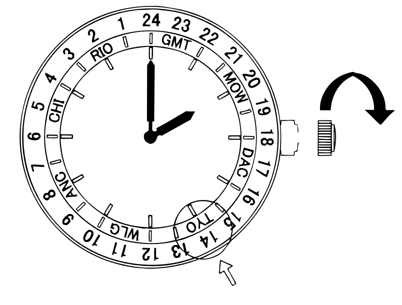
（2）回転表示板に都市名が表示されているモデル

①時刻が現在の時刻に合っていることを確認します。
②りゅうずを1段目まで引き出します。
※この時計のりゅうずは2段に引けます。
③りゅうずを右に回して、回転表示板のあなたが現在いる都市名を現在時刻に合わせます。（表示盤は30分単位で左回りに回転します。）
④りゅうずを押し込みます。

例.日本で使用する場合
回転表示板のTOKYO（TYO）を現時刻に合わせます。日本時間午後2時00分の場合、回転表示板のTOKYO（TYO）を14時に合わせます。



◆ 都市名表示部（内装リング・ベゼル）回転タイプの使い方

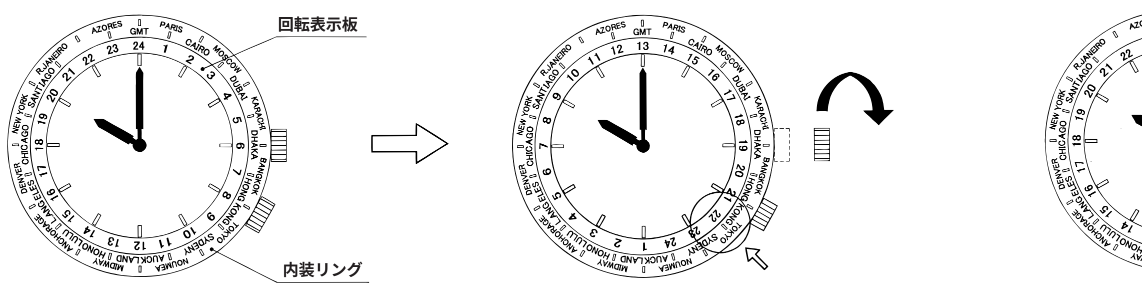


商品によっては回転表示板以外に、内装リング（都市名表示部）が回転するタイプ及び、ベゼル（都市名表示部）が回転するタイプがあります。お取り扱いについては製品をお確かめの上、下記内容をご参照下さい。

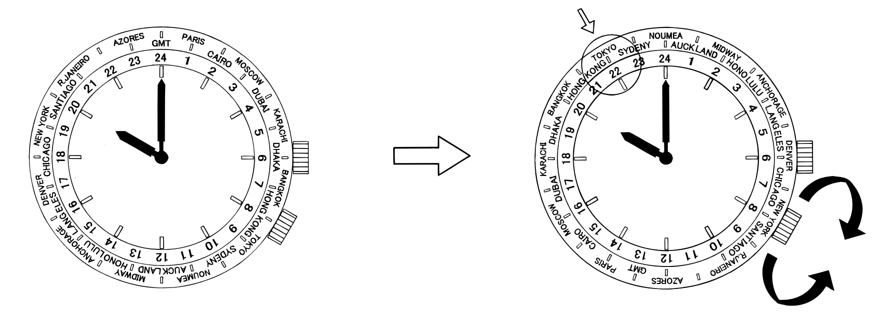
◎使用方法

以下の使用方法例は、いずれも日本で使用する場合です。
例の図は、内装リングタイプで、4時側が内装リング用りゅうずモデルの場合です。

例1･･･回転表示板の時刻をTOKYO（TYO）に合わせます。
日本時間午後10時00分の場合、回転表示板22時をTOKYO（TYO）に合わせます。（◆回転表示板（ワールドタイム機能）の使い方参照）



例2･･･内装リング（またはベゼル）のTOKYO（TYO）を現時刻に合わせる。
日本時間午後10時00分の場合、内装リング（またはベゼル）のTOKYO（TYO）を、22時に合わせます。



例3･･･例1、例2を組合わせ、TOKYO(TYO)を見やすい位置（12時位置）に合わせる。
内装リング（またはベゼル）のTOKYO（TYO）を12時位置に回転させます。
日本時間午後10時00分の場合、回転表示板の22時をTOKYO（TYO）に合わせます。

例4･･･普段使用する都市を見やすい位置（12時位置）に合わせる。（NEW YORKの場合）
内装リング（またはベゼル）のNEW YORK（NYC）を12時位置に回転させます。
日本時間午後10時00分の場合、回転表示板の22時をTKYO（TYO）に合わせます。

◆ 標準時比較一覧

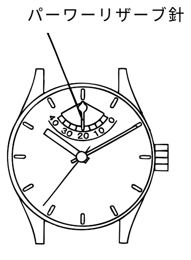
都市名			その他の都市	GMTとの時差
GMT		グリニッジ標準時	ロンドン、カサブランカ、ダカール	0
PARIS	(PAR)	パリ	ローマ、アムステルダム、トリポリ、フランクフルト、ベルリン	+1
CAIRO	(CAI)	カイロ	アテネ、イスタンブール、ケープタウン	+2
MOSCOW	(MOW)	モスクワ	メッカ、ナイロビ、キエフ	+3
DUBAI	(DXB)	デュバイ		+4
KARACHI	(KHI)	カラチ		+5
DHAKA	(DAC)	ダッカ	タシケント	+6
BANGKOK	(BKK)	バンコック	プノンペン、ジャカルタ	+7
HONGKONG	(HKG)	ホンコン	シンガポール、北京、マニラ	+8
TOKYO	(TYO)	東京	ソウル、平壌	+9
SYDNEY	(SYD)	シドニー	グァム島、ハバロフスク	+10
NOUMEA	(NOU)	ヌーメア（ニューカレドニア）	ソロモン諸島	+11
WELLINGTON	(WLG)	ウエリントン	オークランド、フィジー諸島	+12
MIDWAY	(MDY)	ミッドウェイ		−11
HONOLULU	(HNL)	ホノルル		−10
ANCHORAGE	(ANC)	アンカレッジ	ドーソン（カナダ）	−9
LOS ANGELES	(LAX)	ロサンジェルス	サンフランシスコ、バンクーバー	−8
DENVER	(DEN)	デンバー	エドモントン（カナダ）	−7
CHICAGO	(CHI)	シカゴ	メキシコシティー	−6
NEW YORK	(NYC)	ニューヨーク	ワシントン、モントリオール	−5
SANTIAGO	(SCL)	サンチアゴ		−4
RIO DE JANEIRO	(RIO)	リオデジャネイロ	ブエノスアイレス	−3
			ベルデ岬島	−2
AZORES		アゾレス		−1

※国によっては、夏時間（サマータイム）がある場合もあり、各国の時差およびサマータイムは国の都合により変更となる場合があります。
※都市名は世界各国の代表都市が明記してあります。また、製品の改良のため予告なく仕様の一部を変更することがありますのでご了承下さい。

◆ パワーリザーブインジケーター

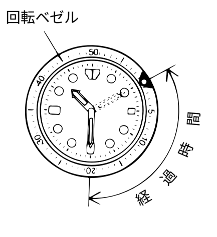
パワーリザーブインジケーターとは、ぜんまいの巻上げ状態を時間で示し、残り駆動時間がひと目で解かる機能です。ぜんまいの巻上げ残量の表示はパワーリザーブ針によって表示していますので、針の指す時間が巻上げ残量時間です。
※このぜんまいの巻上げ残量時間はあくまでも目安ですので、表示の時間と実際の残量時間には差がありますので予めご了承下さい。

本製品は自動巻の製品にパワーリザーブインジケーター機能を備えていますので、腕に付けている間は腕の動きにより、ぜんまいが常に巻上げられ、パワーリザーブ針の表示は全巻（40H）方向を表示しています。
尚、腕の動きによりぜんまいの巻上げ量は異なりますので、常に全巻き方向を表示しているとは限りませんのでご了承下さい。腕から外し、ぜんまいを巻上げなければ時間の経過とともにパワーリザーブ針の表示はゼロ方向へと移動します。



◆ 回転ベゼルの使い方

商品によっては、回転ベゼル付きのモデルがありますので、お買い求めの時計をご確認の上、正しくご使用下さい。回転ベゼルを回して、▽マークを分針に合わせて下さい。ある時間が経過した後に分針の示す回転ベゼル上の数字を読むことにより、経過時間を知ることができます。また、目的時刻に合わせておくことにより、残り時間を知ることもできます。
回転ベゼルは逆回転防止機構の付いた、ラチエット装置が付いていますので、ショックによる不用意な回転を防止し、また目盛りのセットがしやすくなっています。



上図は、10時10分から20分経過したことを示しています。

◆ お取り扱いにあたって

（1）防水性能について

⚠警告

①日常生活用防水（3気圧）の時計は、洗顔等には使用できますが、水の中に入れてしまうような環境での使用はできません。
②日常生活用強化防水Ⅰ（5気圧）の時計は、水泳などには使用できますが、スキンダイビングを含めて全ての潜水には使用できません。
③日常生活用強化防水Ⅱ（10・20気圧）の時計は、スキンダイビング（素潜り）には使用できますが、空気ボンベを使用するスキューバー潜水及びヘリウムガスを使用する飽和潜水などには、使用できません。

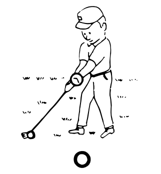
タイプ ＼ 使用条件		●一時的にかかる水滴（洗顔・雨など）	●水泳・ヨットなどの水上スポーツ、漁業・農業などの水仕事 水道の蛇口等強い水流	●空気ボンベを使用しないスキンダイビング	●スキューバーダイビング（空気ボンベ使用）	●水中でのりゅうず操作並びに水滴のついたままでのりゅうず操作
非防水	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示のない時計。	×	×	×	×	×
日常生活用防水	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示のある時計。	○	×	×	×	×
日常生活用強化防水Ⅰ	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示とともに裏ぶた又は、文字板に5BAR表示のある時計。	○	○	×	×	×
日常生活用強化防水Ⅱ	ケースの裏ぶたにWATER RESISTANT表示とともに裏ぶた又は、文字板に10BAR, 15BAR又は20BAR表示のある時計。	○	○	○	×	×

※時計の文字板または裏ぶたにある防水性能表示をご確認の上、上記使用可能範囲にそって正しくご使用下さい。

⚠注意
④りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用下さい。りゅうずがねじロック式のものであれば、しっかり締め込まれているか確認して下さい。
⑤水中あるいは水分のついたままりゅうず操作をしないで下さい。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
⑥非防水時計については、一時的にかかる水滴（洗顔時の水はね・雨など）や汗にはご注意下さい。万一、水や汗でぬれた場合には乾いた柔らかい布で水分を拭き取って下さい。
⑦日常生活用防水時計でも、勢いのある水道の水を直接あてるなどのことは避けて下さい。リミット以上の水圧がかかり防水不良となる場合があります。
⑧日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸かった後は、ケースについた海水をよく洗い流し、洗った後はよく拭き取りサビなどが出ないようにして下さい。
⑨皮革バンドは材質の特性上、水にぬれると耐久性に影響がでる場合があり、脱色・接着はがれなどの不具合も起こすことがありますので、特に水の中で使う場合には、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上、ご使用下さい。
⑩時計内部には多少の湿気がありますので、外気が時計内部の温度より低いときにはガラス面がくもる場合があります。くもりが一時的の場合には内部に支障はありませんが、長時間消えない場合や時計内部に水分が入っている場合には、そのまま放置せず、お買い上げ店、またはオリエント時計サービスセンターにご相談下さい。

（2）ショックについて

①ゴルフなどの軽スポーツによる影響はありませんが、激しいスポーツの場合は取り外して下さい。
②床面に落とすなど激しいショックは与えないで下さい。



（3）磁気について

①家庭用電気製品程度の磁気には心配ありません。

⚠注意
②磁石、磁気健康器具（肩こり治療器・腕輪など）、電気マージャン台などの強い磁気を発生するものには、近づけないで下さい。
③時計にANTIMAG.ⅠまたはANTIMAG.Ⅱと表示してある時計は磁気に耐えられる性質を強化してありますが、強い磁気を発生する器具に密着またはより近づけることはお避け下さい。
●ANTIMAG.Ⅰ… 4,800A/m（ 60ガウス）
●ANTIMAG.Ⅱ…16,000A/m（200ガウス）まで耐えられます。
④強い磁気を発生する所に長時間放置しますと部品が磁化して、故障の原因となることがありますので、ご注意下さい。
⑤磁気の影響を受けると一時的な進み遅れが生じることがありますが、磁気から遠ざけると元の精度で動きます。この場合は時刻を修正して下さい。

⑥発生する磁気の強さは表を参考にして下さい。

● 身の回りの磁気製品・電気製品の磁界の強さ

製品名	磁界の強さ（単位:A/m）	判定		磁界の強さ（単位:A/m）	判定	
	密着状態	ANTIMAG Ⅰ	ANTIMAG Ⅱ	5cm離れた状態	ANTIMAG Ⅰ	ANTIMAG Ⅱ
紙止め用磁石（DC）	23,900〜71,600 （300〜900ガウス）	×	×	200〜1,200 （2.5〜15ガウス）	○	○
テレビ（AC・DC）	500〜1,200 （6〜15ガウス）	○	○	0〜400 （0〜5ガウス）	○	○
冷蔵庫の開閉部磁石（DC）	31,800〜63,700 （400〜800ガウス）	×	×	400〜3,200 （5〜40ガウス）	○	○
電話機のスピーカー部（DC）	2,400〜3,600 （30〜45ガウス）	○	○	300〜400 （4〜5ガウス）	○	○
電気カミソリ（AC）	6,400〜11,900 （80〜150ガウス）	×	○	400〜800 （4〜10ガウス）	○	○
音響製品のスピーカー部（DC）	600〜20,000 （8〜250ガウス）	△	△	0〜3,200 （0〜40ガウス）	○	○
各種家具の開閉部磁石（DC）	47,800〜63,700 （600〜800ガウス）	×	×	800〜1,200 （10〜15ガウス）	○	○
磁気パッド（DC）	47,800〜119,400 （600〜1,500ガウス）	×	×	0 （0ガウス）	○	○
磁気ネックレス（DC）	63,700〜95,500 （800〜1200ガウス）	×	×	40〜80 （0.5〜1ガウス）	○	○
ハンドバッグの開閉部磁石（DC）	28,700〜63,700 （360〜800ガウス）	×	×	0〜240 （0〜3ガウス）	○	○

※ 判定の ○ は影響無し、× は影響有り、△ は製品・機種によって異なります。
※ 上表の数値は目安です。磁界の強さは磁気製品・電気製品の機種により強弱が異なります。
※ 磁界の強さは距離の二乗に反比例しますので、密着状態と少し離れた状態でその数値は大きく異なります。

（4）振動について

強い振動を加えないで下さい。時計の進み遅れの原因になります。（注:場合によっては、点検調整修理が必要になります。）

（5）温度について

常温〈5℃〜35℃〉から外れた環境では、機能が低下したり停止する場合があります。

（6）化学薬品・ガスなどについて

ガス、水銀、化学薬品など（シンナー・ガソリン・各種溶剤、またはそれらを含むクリーナー・接着剤・塗料・薬品・香水・化粧品類）が触れるとケース、バンド、文字板の変色や樹脂部品では、変色、変形、破損する場合がありますので十分ご注意下さい。

（7）付属部品について

⚠警告
バンドやピン等は乳幼児の手の届かないところに保管して下さい。万一、飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談下さい。

（8）高温下での使用

⚠注意
サウナなどの高温下での装着は、火ぶくれ（火傷）になる可能性がありますので、ご使用をお避け下さい。

◆かぶれやアレルギーについて

⚠注意
体質により皮革・金属・軟質および硬質プラスチックなどにて皮膚がかぶれたり、肌に異常が認められたときは、直ちにご使用を中止し、専門医にご相談下さい。

◆ルミナスライトについて

商品によっては、針・文字板等にルミナスライトを使用しているものがあります。
ルミナスライトは放射性物質を含まない安全な蓄光塗料（光を蓄えて発光する塗料）です。太陽光や照明光等の光を塗料に蓄えて発光します。なお、蓄えた光を発光させていますので、輝度（明るさ）は時間の経過とともにだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際、ガラスの形状・蓄光材の厚み・まわりの明るさ・時計との距離・光の吸収度合などの諸条件により、発光の強さや時間には誤差を生じます。光の蓄え方が弱い場合、発光が弱かったり発光時間が短いことがありますのでご注意ください。

◆耐水処理バンドについて

商品によっては、汗や水に触れても吸収しにくい特殊な処理を施した皮革・ナイロンバンドを使用しているものがあります。
このバンドの耐水性は使用期間・使用条件により、効果が劣化しますのでご了承下さい。

◆銀製品について

商品によっては、ケース・バンドが銀および銀メッキのものがあります。銀の性質として、酸化物・硫化物（空気中や人体老廃物など、身の回りに多く存在します。）と反応して表面の色合いが黒く変色します。このような場合は、銀製品用クロスで拭いて下さい。元の色合いに戻ります。

◆長くご愛用いただくために

⚠注意

（1）ケース・バンドのお手入れ
①ケース・バンドなどに付着した汚れや水分は時計機能を損なったり、皮膚の弱い方のかぶれや衣類の袖口を汚す原因となる場合があります。末永くご使用いただくために柔らかい布などで拭き常に清潔にしてお使い下さい。特にバンドは肌着類と同様、直接肌に接していますので、定期的に次の方法で汚れを取りご使用下さい。
［ケース］
汚れを柔らかい布などで拭き取って下さい。薬品などは変色の原因となりますので、使用しないで下さい。
［金属バンド］
石鹸水を付けた柔らかい歯ブラシで部分洗いをして下さい。このとき、非防水時計は水がケースにかからないように注意して下さい。汚れたままにしておきますと腐食・サビの原因ともなります。
［皮革バンド］
乾いた柔らかい布で、水分・汚れを取り除いて下さい。こすると色落ちすることがありますので注意して下さい。
［軟質プラスチックバンド］
ウレタン・ナイロンなどのバンドは特に手入れの必要はありませんが、汚れがひどくなりますと皮膚がかぶれたりする場合がありますので、時々石鹸水または水で洗って下さい。薬品などは変質の原因となりますのでご使用にならないで下さい。また使用期間によっては、材質が硬くなり、折れたり割れたりする場合がありますので、その際は新しいバンドと交換して下さい。
②ケースおよびバンドに水銀（体温計など）・薬品などが付着すると変色する場合がありますのでご注意下さい。
③バンドは指1本が入る程度の余裕を持たせ通気性をよくしてご使用下さい。また、皮革バンドは高温多湿になる場所での保管は避けて下さい。
④ケースとバンドとの接合部や金属バンドの駒の接合部に使用しているピンが錆びると、バンドが外れたり時計が脱落したり、稀に怪我をすることがありますのでご注意ください。

（2）回転ベゼルのお手入れ
回転ベゼル付きの商品はベゼルの下に汚れなどがたまり、機能が損なわれる場合がありますので、柔らかい歯ブラシで汚れを落とし清潔にしておいて下さい。

（3）点検のおすすめ
①2〜3年に1度の点検をおすすめします。保油状態、汗・水分侵入の有無などお買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにお申し付け下さい。点検の結果によっては調整・修理を必要とする場合があります。
②定期点検をする際は、防水性能を保つために、パッキン等の交換をおすすめします。また、ばね棒も必要に応じて交換して下さい。
③部品交換のときは「純正部品」とご指定下さい。

◆保証とサービスについて

※保証書は必ずお読みください。

1. 保証について
本製品が保証期間内に取扱説明書にそった正常なご使用状態で、万一故障が生じた場合には、保証書に従い無償で修理・調整いたします。保証書を添えてお買い上げ店またはオリエント時計サービスセンターにお持ち下さい。保証内容は保証書に記載されていますので必ずお読み下さい。
2. 補修用部品の保有期間について
この時計の補修用部品の保有年数は、生産終了後通常7年間を基準としています。
※補修用部品とは、
製品（時計）内部の時間機能のための機械体（ムーブメント）の部品です。
ケース・ガラス・文字板・針・バンド・りゅうずなど製品の機能維持と直接関係ない外装部品は含まれていません。これらの外装部品は、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承下さい。
3. 修理可能期間について
原則として、正常なご使用であれば補修用部品の保有期間中の修理は可能です。ただし、修理可能時期は、ご使用条件・環境で著しく異なり、精度の劣化も修理によっては初期精度の復元が困難な場合がありますので、修理ご依頼の際には、現品持参の上、お買い上げ店とよくご相談下さい。
4. ご転居・ご贈答品の場合について
ご転居・ご贈答品などで、お買い上げ店が遠隔地となり、保証サービスが受けられない場合にはお近くの当社サービスセンターにご相談下さい。
5. 商品に関するお問い合わせについて
商品に関するお問い合わせは、お客様相談室へお問い合わせ下さい。
6. その他のお問い合わせについて
その他保証とサービスについてご不明の点がありましたらお近くの当社サービスセンターへお問い合わせ下さい。

84A. 09 U